

2023年3月22日 VOL.2 MOTAU_HA

キオマ通信



躍動：イソン

2023年3月22日 VOL.2 MOTAU_HA

私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

コトハ・インテグラルリサーチ ニュースレター



春といえば…春祭りのお稻荷さん

光を生きるあなたへ

光ンソン

第2回 「いよいよ人類も絶滅危惧種に指定？」

ヲキンソン ありがとうございます。

今年に入り、もう3月。
いよいよセミシーズンの到来です。

えっ？

まだでしょ、と思った方、沖縄には4月には鳴き始める「イワサキクサゼミ」という、体長1.5センチくらいの日本一小さいセミがいて、過去には宮古島で3月中旬から鳴き始めています。

いやいや、沖縄でしょ、と思った方、四国でも4～5月には鳴き始める「ハルゼミ」がいます。体長は2～3センチの小型のセミで、今や多くの自治体で絶滅危惧種です。

話は変わりますが、絶滅危惧種ってたくさんいますが、ご存知ですか？

世界には、4万種近い絶滅危惧種がいて、シロサイとかアジアゾウとかチンパンジーなどのお馴染みの動物もいます。日本に生息する絶滅危惧種にはイリオモテヤマネコとかコウノトリとかトキとかヤンバルクイナなどがいます。

こうした絶滅危惧種の種類は年々増えていて、その背景には自然淘汰だけではなく、人間の関与がある、と言われているようです。

しかし、よく考えてみると、今こうした絶滅危惧種に指定されている動物の種類よりも、遥かに多くの動物がこれまで滅んできています。

かつてグラハ※が創造した数々の動物たちですが、環境の変化などに対応しきれずに、絶滅していった動物の数は、数百万、数千万にもおよびます。

私たち人間は、なんとかして絶滅しそうな動物を守らないと！と反応しますが、グラハにしてみたら、次々に変化している中での小さな出来事に過ぎないかもしれません。

人間だって同じですよ。

グラハからすれば、人間も地球上の絶滅危惧種かもしれないし、仮に絶滅してもそれはそれって感じかもしれません。

もしかしたら人間は、今本当に、自分たちを絶滅危惧種にする道を進んでいるのかもしれないのです。

実際、過去に一度、人類はこの地球上から絶滅しています。

先日、そのときの記憶をお持ちの方と話しましたが、それはもう大変だったみたいで、それ以来、ずっとその方は心の中にどうすることもできない自分の弱さや惨めさを抱えて生きてきたそうです。

もう二度と自分たちを絶滅させるようなことはしたらいけませんね。
今、私たちに必要なのは「目覚め」です。

ヲキンソンソン ありがとうございます。

※グラハとは・・・地球外生命体の総称です。



ちいさ！ かわいいね～～



春といえば…暖かい日差し、気持ちの良い風、甘い香り、嬉しそうな花々。
日本の四季はそれぞれにいいですね。創造の多様性を欣ぶ、です。

第2回 KIR役割分担について

ヲキンキツマ
ありがとうございます。

KIRは、
「すべての人に純粋な知識と進化の道が開かれ、完全な目覚めが具現化された世界の実現」
「人々の内側を純粋さで満たし、喜びを生きる世界の実現」
これらを真の願望として掲げています。

真の願望という達成に向けて、皆が枠を作らずに同じ方向をみて、皆が皆のことに意識を向けて活動を進めていこうとしています。
枠は作らないようにしますが、KIRの多様性溢れる活動を具現化するために、おおまかな役割分担があります。

ワラン(牧野 洋逸) 今治事務所 所長
ヤリノ(赤坂 正敏) K-PVT・講座運営
ワトホ(小俣 真理) 経理・K-PVT
ワナム(中谷 哲則) 農法・大三島開拓
ナシニ(山崎 由美子) K-PVT講師・K-PVT講師育成
キリヲ(眞部 塩) キオマ食堂・講座運営
イスン(中畑 真一) KIR代表理事
ツケオ(大塚 道敬) 農法・講座運営
ナエン(山本 理恵) キオマ食堂
チケエ(上田 晴美) チケカフェ・講座運営
キツマ(岩崎 絢子) 農法・講座運営・大三島開拓

キオマ通信の担当項目については、このおおまかな役割分担によって割り振られています。

次回からは、ひとりひとりの活動についてお伝えしていきたいと考えています。

ヲキンキツマ
ありがとうございます。



第2回 それぞれの進化成長がある

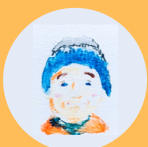
ヲキンツケオ
ありがとうございます

小松菜から種を採取するために小松菜を育てています。
収穫しない小松菜は、どんどん大きくなって穂が立ち上がり、菜の花が咲くようになりました。
小松菜の黄色の菜の花に美しさを感じます。
一方で、本来であれば間引きをするような5 cm程度の小さな小松菜を、間引きをしないで育てていました。
小さな小松菜は、月日が経過しても葉は大きく成長しない状態でした。
でもある日、その小さな小松菜から穂が立ち上がり黄色い菜の花が咲きました。

進化成長というのは、どんどん大きく成長しているものが進化していくものだと思っていました。
一見成長しないと思っていた小さな小松菜にも、ちゃんと進化成長というものは、あるということを知ることができました。

どんな階層にも、その階層に応じた進化があるという知識を聞いたことがありますが、小さな小松菜にも菜の花が咲いていることを見たときに、その知識を実際に体験した出来事でした。

ヲキンツケオ
ありがとうございます



第2回 大三島の自然

ヲキンワナム ありがとうございます。

大三島にも春の空気が溢れてきています。

菜の花も咲き、そして暖かくなると同時にモンシロチョウやミツバチなどが飛び交い、島の緑も濃くなり、彩りが映える春の世界に変化してきています。

瀬戸内海の島の印象として、穏やかな海と島々が浮かぶ海原とキラキラと輝く水面を思い浮かべると思います。もちろん大三島にもこういった風景を随所で見ることができます。

まず、島内に入って感じたことは潮の香りがあまりしないことでした。自身の生まれ育った島に帰省した際に、潮の香りで帰ってきたんだなと思うことがよくありました。

大三島は国宝の島と知られていて、神の島として魚類を採ることは長らく禁忌とされていたことから、漁業が盛んではなく漁港では市場や加工場を見ることはとても少ないです。

そのことから潮の香りを感じることも少ないように思います。

大三島は大きく開発されることもなく、豊かな生態系を温存する生物多様性の島で、湿地、干潟、砂浜、といった多様な地形や原生林、コンクリート護岸されていない田んぼなど、豊かな生態系を育む環境が守られているそうです。

山々には広葉樹が茂っていて、それは明治期以降に植林された人工林とされていますが、有史以前には、大山祇神社の周りがある原生林の植生が山々にも広がっていたそうです。

是非、大三島の自然を感じに来られてみてください。

大山祇神社の後方にそびえる鷲ヶ頭山に続く安神山に登ってみることもお勧めいたします。

島の静寂さを感じることができるかも知れません。

ヲキンワナム ありがとうございます。



第2回 「怖いことをやりなさい」

ヲキンヤリノ ありがとうございます。

キオマ通信2通目、早くも何を書こうかと悩んでいます。それにしてもなぜ悩むのでしょうか？

善悪の判断と記憶

「よいものを書かねばならない」という思いがこの状況を悩ましいものに行っていることに気づきました。文章を善悪で判断しています。もちろん文章を書く上で純粋な知識に沿っているか、という識別は必要ですが、それ以外のあれやこれやの記憶とそれに伴う感情で行動していると悩みます。

怖さ

ヤリノは以前ソソ先生に「怖いことをやりなさい。それは未来に向かっていく時に感じるから」というお言葉をいただきました。悩みや迷いや不安は過去に向かっていく時に感じるもの、怖さは未来に向かっていく時に感じるもの。ヤリノはキオマ通信で文章を書かさせていただくことで未来を創造できるんです。にも関わらず過去の記憶である「こういうものがよい文章」という判断（反応）をし、創造のステップを生きないのはもったいないですね。

達成を観る

未来を創造する文章を書くためには達成を観る…具体的にどうしたらいいのかわからない部分も多々あります。でも、怖いという感覚をセンサーにすることはできます。KIRの達成は「全ての人に純粋な知識と進化の道が開かれ、完全な目覚めが具現化された世界の実現。」です。この達成を観て文章を書きます、と宣言することは怖いんです。だって未知だから。

「怖いことをやりなさい。」

はっ、そうでした！この文章が、そしてキオマ通信が、純粋な知識として全ての人々の進化のために届くことを観て、今号はこれでいきます。キリヲさん、お願いします！

ヲキンヤリノ ありがとうございます。



※このヤリノなりの「向き合い」のプロセスは、今まで学んできた講座の知識があつてのもので、改めて講座ってありがたいなと思います。



春といえば…さくらもち

第2回 K-PVT の基本理論について、その2

ヲキンワトホ
ありがとうございます。

一般的な瞑想法が、こころの静寂を得る、あるいは普遍意識それ自体を体験する、ことを目的としているのに対して、K-PVTは、普遍意識からコトハを響かせる（静寂を躍動させる）ことを目的とし、その効果を積極的に活動のレベルに広げていくための技術です。

K-PVTではこころの深く内側で普遍意識に触れながら、コトハを響かせることによって自然知性の光を創造します。

形も色もないその光は、こころの領域、からだの領域、外側の領域へと、響きによって形になっていきます。

ヲキンワトホ
ありがとうございます。



第2回 ナエンの友と、新メニューのこと

ヲキンナエン ありがとうございます

さて。第二弾です。

ナエンの友人が送ってくれる写真が、ソソン先生がお話される話題にドンピシャ当てはまっていて、毎度感心しています。

『今朝の太陽いつもと違う気がする』と言って2/3に送ってくれた写真は、『上に向かって光が伸びてた』と。いつも見ていないとその違いに気づかなかったりするから、その観察眼、鋭い。一か月後の3/3に『今夜のお月様は神秘的』と来た写真は『月の周りに輪っかができている』って。3/7に行われたルートラーナの定例ミーティングで先生がこの時の月のお話をされていて、(滅多に見られないと先生もおっしゃっていました)送ってくれたあの写真の月のことだとピンとききました。示し合わせた訳じゃないのに、日頃仕事や家のことで忙しくしている友人が、朝に夕に、空をよく見ているんだなあと感じて不思議な気分になりました。空の異変にいち早く気づいて、美しい星空や月が出ている時、雲の変化、また天気予報を教えてくれることもあります。

空に関連して言えば、このキオマ通信、新月満月の祭祀の日に発行です。

という事は、約二週間後、達成の間隔も狭まってスピード感満載で原稿締め切りが迫りかけてくるようですが、私たちは毎瞬間創造の源。

この場合もソソン先生がおっしゃいました『ギリギリを生きてください』を、生きているといえるのかもしれない。

おかげさまで余裕がない状態が普通、それが日常となりつつあることは、進化を意図する者にとってありがたいことです。

最後に新メニューのお知らせです。

キオマ食堂の新メニュー「キッズプレート」、小学生以下のお子さま用に量を少なめにして、おむすびとお味噌汁におやつ付きでご提供できる運びとなりました。ご予約は、お申込みフォームから選択していただけます。ご要望がありましたら、お知らせください。

では、今回はこれにて。ごきげんよう。To be continue~次回満月~続く

ヲキンナエン ありがとうございます



第2回 その2

ヲキンチケエ

ありがとうございます。

カフェのメニューであるハーブティーは、前回お伝えさせていただいたように、その方に光を観ようとし、それを現すものとしてお出ししています。

ブレンドする際に使用したハーブをチェックして、その都度お伝えしているのですが、その紙の一番上に "sightseaing" と書いてあるのに気づかれた方もいらっしゃるかもしれません。

これは何ですか？と時々聞いてくださる方がいらっしゃるのですが、こちらで共有させていただきますと、正しい綴りは「sightseeing」=観光であるところを、あえて「see」を「sea」に変え、すべての存在がひとつの海で繋がっていて、ひとつの光の現れであること。その光（あるいは海）をいつも観ているということ。実際に、その内側の海が観えているのかどうかはともかく、自身はいつの頃からか内側で大切にされていて、今回それをお茶のタイトルに使用しました。

ただひとつの光をみているなら、お茶のブレンドも同じになるんちゃうん、と思えなくもないのですが、お茶を通して淡々とそれを現そうとすると、それは実に多様な現れとして毎回お皿の上を彩り、現れたそれを見た自身が、毎回静かに驚いているわけです。

不思議な味のするお茶なのかもしれませんが、ぜひそのプロセスを味わいにいらしてください。お待ちしております。

（ハーブティーの話なのに、写真は菓子ですね。こちらもまた光の現れとして、お出ししています。日替わりで、時々へんてこなのが出たりします。お楽しみに…）

ヲキンチケエ

ありがとうございます。



春といえば…さようなら。 こんにちは。

第2回 記憶と2枚のウロコと未来のお話

ヲキンキリヲ ありがとうございます

キオマ通信も早くも2通目、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

キリヲはつい先日、ミコトに関わるような記憶を思い出しました。数年前にその記憶に関わる事柄を、ンソン先生から勧められて一時的に取り組んだことがあります。それがミコトとはどうしても思えず、違う道に進んだ、という経緯があります。その決断をしたとき、ンソン先生は何もおっしゃいませんでした。でもンソン先生はその後もずっと、キリヲがミコトを進められるように、段階的に支援してくださったように思います。そのおかげで、最近では徐々にではありますが、ミコトに取り組むことができるようになってきており、その結果として、それに関わる記憶を思い出したのかな、と受け止めています。

それにしてもキリヲはなぜ「それがミコトとはどうしても思えず、違う道に進んだ」のでしょうか？それは、ミコトを進めることは、その人にとっての最大の苦しみになるから。つまり「苦しかったから、投げ出した」ということですね。

自覚がなかっただけに、「人ってこんなふうに自分を騙して生きるのか…」と、目からウロコが落ちる思いでしたし、投げ出したあとでもできる範囲でそれを続けていた自分もいて、「人ってミコトを求めずにはいられないものなのかも」と、やはり目からウロコが落ちる思いでした。

今後のキオマ通信では、KIR今治事業所長のフランさんによる、ミコトについての連載がはじまる予定です。キリヲには「ミコトを投げ出す」という反応がございましたため、いち読者としてミコトについて学ばせていただく所存ですし、そしてなにより新連載が、苦しみながらもミコトを進める皆さまの支えとなりましたら幸いです。

それでは、次回は約2週間後のユリエのク、満月の日にお目にかかれますよう。

最後までお読みくださり、ありがとうございます。

2023年3月22日、モタウのハ、新月の日に。

ヲキンキリヲ ありがとうございます



先日、具現化した春。本号はあちこちに春のリンクがあって素敵だな、と感じました。



春といえば…つぼみがふくらみ、ほころび、ひらく季節。